

Title	平成29年度 新入生の生活に関する調査報告書( 第3章 新入生および保護者調査の結果 )
Author(s)	三浦, 徹; 中川, まり; 三浦, 憂紀
Citation	
Issue Date	2017-09
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10083/61806">http://hdl.handle.net/10083/61806</a>
Rights	
Resource Type	Research Paper
Resource Version	publisher
Additional Information	There are other files related to this item in TeaPot. Check the above URL.

This document is downloaded at: 2017-09-20T05:51:19Z



Ochanomizu University

## 第3章 新入生および保護者調査の結果

### —奨学金・学生寮に関するクロス集計—

#### (1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

#### (2) 奨学金に関する結果

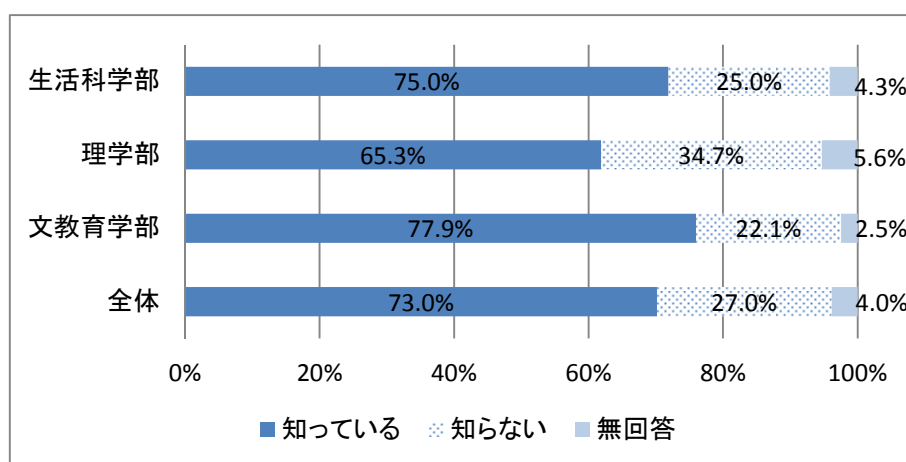
##### ①新入生の結果

##### <奨学金等制度の認知と受給経験>

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

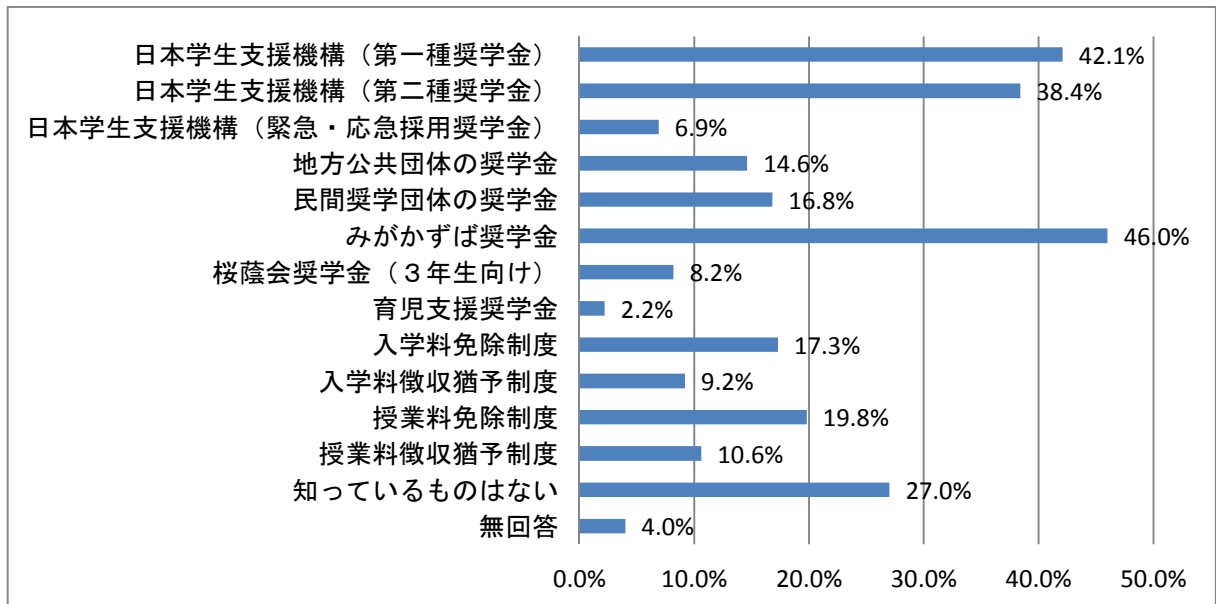
図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、一つでも認知していれば「知っている」とした。

全体では73.0%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が他の学部と比べて10ポイント程度低い結果となっている。



図表1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で46.0%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が42.1%、38.4%と続いている。



図表1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が4.5%と最も多く、ほかの奨学金等制度の受給経験は2%程度と低い割合を示している。

図表1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金名称	日本学生支援機構の奨学金	地方公共団体の奨学金	学校独自の奨学金	民間奨学団体の奨学金	新聞社の奨学金	その他の奨学金	学費免除	特待生
受けたことがある	1.2%	1.7%	2.0%	1.5%	0.0%	0.7%	2.2%	4.5%

### <奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成した。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表1-4 きょうだい数 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	47	16	63
		%	74.6%	25.4%	100.0%
	2人	度数	166	69	235
		%	70.6%	29.4%	100.0%
	3人以上	度数	68	24	92
		%	73.9%	26.1%	100.0%
合計		度数	281	109	390
		%	72.1%	27.9%	100.0%

p<.743

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。公立・国立高校出身者は奨学金等制度について認知している割合が高く、私立高校出身者には奨学金等制度について認知している割合が低いという傾向がみられた。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-5 出身高校設置者 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校 設置者	公立	度数	149	52	201
		%	74.1%	25.9%	100.0%
	私立	度数	72	46	118
		%	61.0%	39.0%	100.0%
	国立	度数	11	4	15
		%	73.3%	26.7%	100.0%
	海外	度数	2	1	3
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	234	103	337
		%	69.4%	30.6%	100.0%

p<.105

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが明らかとなった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-6 奨学金受給経験 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金 受給経験	経験なし	度数	242	103	345
		%	70.1%	29.9%	100.0%
	経験あり	度数	39	6	45
		%	86.7%	13.3%	100.0%
合計		度数	281	109	390
		%	72.1%	27.9%	100.0%

p<.012

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生は、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが示された。

図表1-7 入学後の予定住居 と 奨学金認知 のクロス表

			本人票奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	143	34	177
		%	80.8%	19.2%	100.0%
	実家	度数	137	75	212
		%	64.6%	35.4%	100.0%
合計		度数	280	109	389
		%	72.0%	28.0%	100.0%

p<.001

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額と奨学金認知との間に有意な関連はみられなかった。

図表1-8 仕送り額 と 奨学金認知 のクロス表

		奨学金認知		合計	
		知っている	知らない		
仕送り額	仕送りなし	度数	14	3	17
		%	82.4%	17.6%	100.0%
	5万円未満	度数	15	2	17
		%	88.2%	11.8%	100.0%
	5万円以上 10万円未満	度数	53	17	70
		%	75.7%	24.3%	100.0%
	10万円以上	度数	53	12	65
		%	81.5%	18.5%	100.0%
合計		度数	135	34	169
		%	79.9%	20.1%	100.0%

p<.644

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高く、これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-9 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

		奨学金認知		合計	
		知っている	知らない		
学生寮認知	知っている	度数	213	37	250
		%	85.2%	14.8%	100.0%
	知らない	度数	68	72	140
		%	48.6%	51.4%	100.0%
合計		度数	281	109	390
		%	72.1%	27.9%	100.0%

p<.001

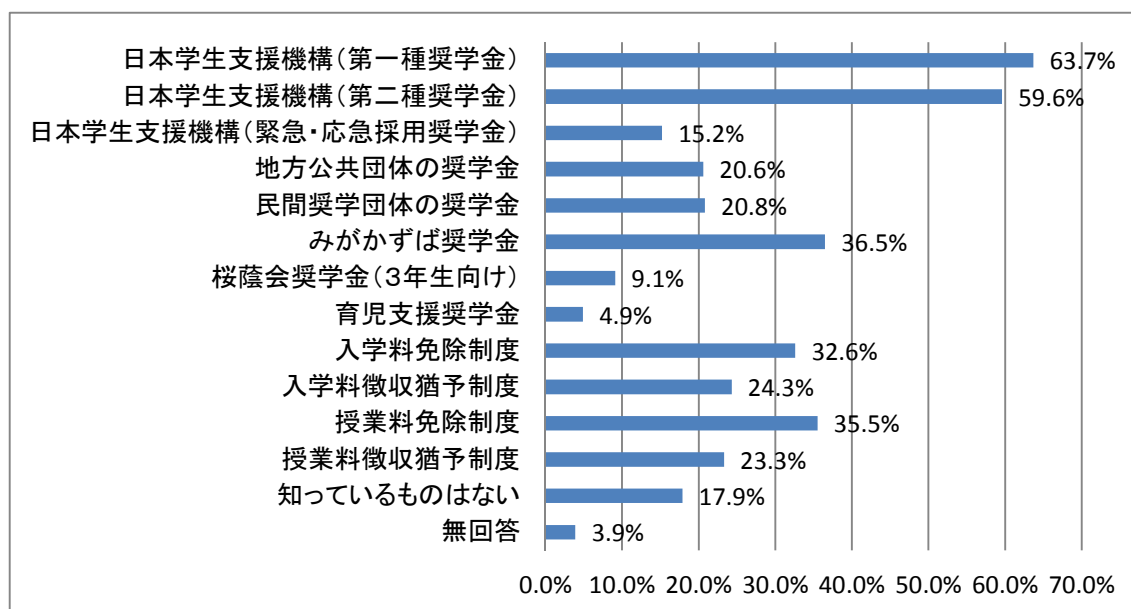
## ②保護者の結果

### <奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、受給経験、利用希望について示したものが図表 2-1～2-3 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

奨学金制度に関しては、日本学生支援機構第一種が63.7%、第二種も59.6%と最も高い認知率である。本学独自の奨学金制度である「みがかずば奨学金」については36.5%で、これは平成27年度の保護者の31.5%よりも5ポイント高い認知率を示していた。「日本学生支援機構（第一種奨学金）」と「授業料免除制度」以外のものはすべて昨年度調査よりも2～5ポイント程度高い認知率であった。（お茶の水女子大学2016）



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表2-2では本学入学予定のご子女がこれまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として保護者に尋ねた結果である。「特待生」が最も多く4.9%で、平成28年度調査の3.8%と比較して1.1ポイント高い結果となった。2番目に多い「学費免除」は3.2%で、こちらも昨年度調査の1.2%と比較して2ポイント高い結果を示している。（お茶の水女子大学2016）

また昨年度は「民間団体の奨学金」「その他の奨学金」の受給経験者は0であったが、今年度は、それぞれ1.2%、0.7%が「受給経験がある」と回答した。

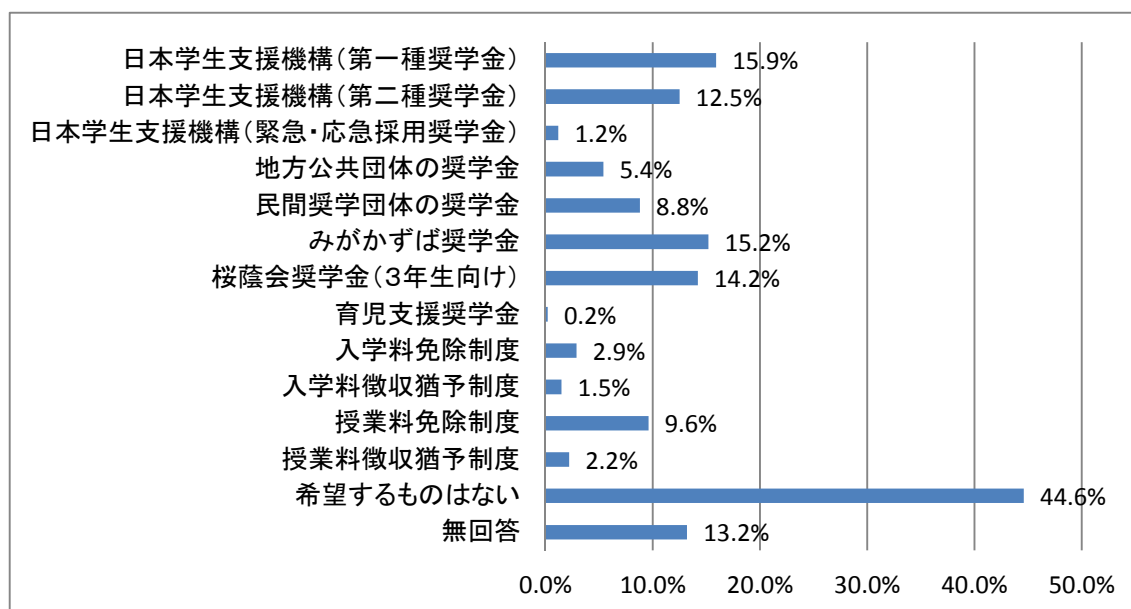
図表 2-2 制度別奨学金等制度の受給経験（保護者票）

奨学金名称	日本学生支援機構の奨学金	地方公共団体の奨学金	学校独自の奨学金	民間奨学団体の奨学金	新聞社の奨学金	その他の奨学金	学費免除	特待生
受けたことがある	0.5%	2.0%	2.0%	1.2%	0.0%	0.7%	3.2%	4.9%

図表 2-3 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。

奨学金制度については、日本学生支援機構の第一種奨学金の利用希望が最も高く、15.9%であった。続いてみがかずば奨学金が15.2%、桜蔭会奨学金が14.2%と続く。平成28年度調査では、みがかずば奨学金の利用希望は11.7%、桜蔭会奨学金は9.6%であったが今年度調査ではそれぞれ3.5ポイント、4.6ポイント高い結果となった。本学独自の給付型奨学金の利用希望が増加している。

また、「日本学生支援機構（第一種奨学金）」と「日本学生支援機構（第二種奨学金）」、「日本学生支援機構（緊急応急採用）」以外の奨学金等制度すべて、平成28年度調査よりも高い利用希望の割合を示していた。特に「日本学生支援機構（第一種奨学金）」は昨年度20.4%とよりも4.5ポイント低い15.9%、「日本学生支援機構（第二種奨学金）」は昨年度15.7%よりも3.2ポイント低い12.5%であり、貸与型奨学金の利用希望が減少していることが推察される。



図表 2-3 奨学金等制度の利用希望

### <奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-4～2-12 に示す。



図表 2-4 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、奨学金を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-4 家計支持者 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父	度数	142	174	316
		%	44.9%	55.1%	100.0%
	母	度数	28	5	33
		%	84.8%	15.2%	100.0%
	本人	度数	3	4	7
		%	42.9%	57.1%	100.0%
合計		度数	173	183	356
		%	48.6%	51.4%	100.0%

p<.001

図表 2-5 は、「父親の就労形態」と「奨学金希望」のクロス表である。父親が「フルタイム勤務」もしくは「自営」の場合は奨学金を希望する割合が低く、「パートタイム勤務」、「無職」、もしくは父親が「いない」場合は奨学金を希望する割合が高いことが示された。平成 28 年度調査では父親の就労形態が「自営」の場合、奨学金を希望する割合が高いことが示されたが、今回の調査では、「自営」の場合、奨学金を希望する割合はわずかに低いことが示された。

図表2-5 父親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	138	169	307
		%	45.0%	55.0%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営	度数	11	12	23
		%	47.8%	52.2%	100.0%
	無職	度数	3	1	4
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	いない	度数	19	1	20
		%	95.0%	5.0%	100.0%
合計		度数	172	183	355
		%	48.5%	51.5%	100.0%

p<.001

図表2-6は、「母親の就労形態」と「奨学金希望」のクロス表である。母親の就労形態が「パートタイム勤務」あるいは「無職」である場合、奨学金を希望する割合が低く、それ以外の場合には奨学金を希望する割合が高い傾向がみられた。しかし「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表2-6 母親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	52	47	99
		%	52.5%	47.5%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	61	72	133
		%	45.9%	54.1%	100.0%
	自営	度数	8	2	10
		%	80.0%	20.0%	100.0%
	無職	度数	47	55	102
		%	46.1%	53.9%	100.0%
	いない	度数	2	1	3
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計	度数	170	177	347	
	%	49.0%	51.0%	100.0%	

p<.232

図表2-7は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-7 入学後の暮らし向き と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	147	65	212
		%	69.3%	30.7%	100.0%
	ゆとりがある	度数	24	114	138
		%	17.4%	82.6%	100.0%
合計	度数	171	179	350	
	%	48.9%	51.1%	100.0%	

p<.001

図表2-8は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。世帯年収が低い場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が高い場合には奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-8 世帯年収 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	28	1	29	
		%	96.6%	3.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	28	6	34	
		%	82.4%	17.6%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	35	16	51	
		%	68.6%	31.4%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	45	37	82	
		%	54.9%	45.1%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	16	48	64	
		%	25.0%	75.0%	100.0%	
	1200万円以上	度数	20	70	90	
		%	22.2%	77.8%	100.0%	
	合計		度数	172	178	350
			%	49.1%	50.9%	100.0%

p<.001

図表2-9は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が低い場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が高い場合には奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-9 家計支持者年収 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	38	3	41	
		%	92.7%	7.3%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	31	9	40	
		%	77.5%	22.5%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	42	32	74	
		%	56.8%	43.2%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	36	44	80	
		%	45.0%	55.0%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	15	48	63	
		%	23.8%	76.2%	100.0%	
	1200万円以上	度数	10	42	52	
		%	19.2%	80.8%	100.0%	
	合計		度数	172	178	350
			%	49.1%	50.9%	100.0%

p<.001

図表2-10は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-10 奨学金受給経験 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金 受給経験	経験なし	度数	137	173	310
		%	44.2%	55.8%	100.0%
	経験あり	度数	36	10	46
		%	78.3%	21.7%	100.0%
合計		度数	173	183	356
		%	48.6%	51.4%	100.0%

p<.001

図表 2-11 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様に、学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。

図表2-11 学生寮認知 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	126	81	207
		%	60.9%	39.1%	100.0%
	知らない	度数	44	99	143
		%	30.8%	69.2%	100.0%
合計		度数	170	180	350
		%	48.6%	51.4%	100.0%

p<.001

図表2-12は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様に、学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。

図表2-12 学生寮希望 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	69	18	87
		%	79.3%	20.7%	100.0%
	希望しない	度数	100	160	260
		%	38.5%	61.5%	100.0%
合計		度数	169	178	347
		%	48.7%	51.3%	100.0%

p<.001

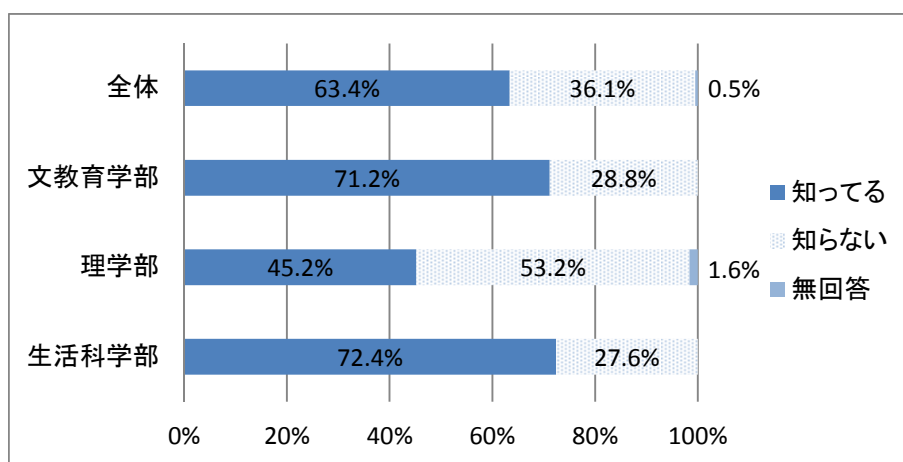
### (3) 学生寮に関する結果

#### ①新入生の結果

##### <学生寮の認知>

図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。一つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では63.4%の新入生が学生寮について認知している。これは平成28年度調査の71.5%と比べて8.1ポイント低い。

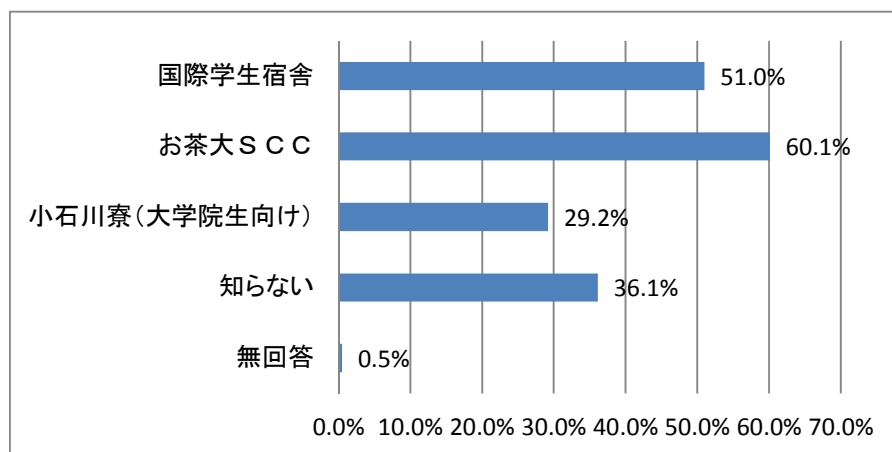
学部別にみると、理学部が他学部に比べて25ポイント以上低い結果となっており、これは昨年度調査でも同様の結果であった。



図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

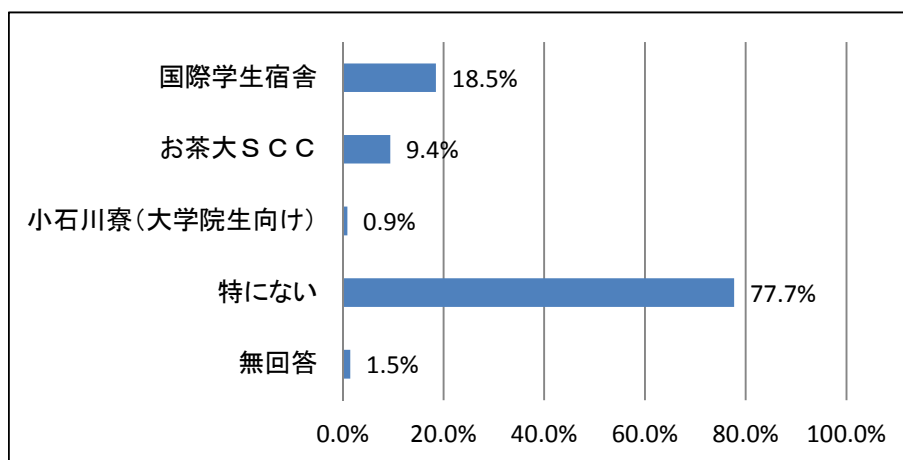
図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（学部1・2年生対象）、小石川寮（大学院生対象）の3つの学生寮がある。

認知率はお茶大 SCC が 60.1% と最も高いが、平成 28 年度新入生の認知率 68.8% と比べると 8.7 ポイント低い結果となっている。また国際学生宿舎の認知率 51.0% は、平成 28 年度新入生の 54.5% と比べ 3.5 ポイント低くなっている。（お茶の水女子大学 2016）



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

今年度の調査から新たに、新入生自身にも入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた。結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特にない」と回答した新入生が最も多く 77.7%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 18.5%、お茶大 SCC を希望する学生は 9.4%であった。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望（寮別）

#### <学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4～3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表3-4 きょうだい数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	43	25	68
		%	63.2%	36.8%	100.0%
	2人	度数	156	84	240
		%	65.0%	35.0%	100.0%
	3人以上	度数	59	37	96
		%	61.5%	38.5%	100.0%
合計		度数	258	146	404
		%	63.9%	36.1%	100.0%

p<.824

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。公立高校出身者は学生寮について認知している割合が高く、私立高校出身者は学生寮について認知している割合が低い傾向が見られた。ただし、「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表3-5 出身高校設置者 と 学生寮認知 のクロス表

		学生寮認知		合計	
		知っている	知らない		
出身高校 設置者	公立	度数	177	85	262
		%	67.6%	32.4%	100.0%
	私立	度数	70	53	123
		%	56.9%	43.1%	100.0%
	国立	度数	7	5	12
		%	58.3%	41.7%	100.0%
	海外	度数	3	2	5
		%	60.0%	40.0%	100.0%
	高卒 認定	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	258	145	403
		%	64.0%	36.0%	100.0%

p<.299

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。奨学金受給経験がある場合、学生寮について認知している割合が高いことが示された。

図表3-6 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

		学生寮認知		合計	
		知っている	知らない		
奨学金 受給経験	なし	度数	223	136	359
		%	62.1%	37.9%	100.0%
	あり	度数	35	10	45
		%	77.8%	22.2%	100.0%
合計		度数	258	146	404
		%	63.9%	36.1%	100.0%

p<.026

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表3-7 入学後の予定住居 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	157	28	185
		%	84.9%	15.1%	100.0%
	実家	度数	100	118	218
		%	45.9%	54.1%	100.0%
合計		度数	257	146	403
		%	63.8%	36.2%	100.0%

p<.001

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-7 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表3-8 仕送り額 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	13	4	17
		%	76.5%	23.5%	100.0%
	5万円未満	度数	17	1	18
		%	94.4%	5.6%	100.0%
	5万円以上 10万円未満	度数	61	13	74
		%	82.4%	17.6%	100.0%
	10万円以上	度数	58	10	68
		%	85.3%	14.7%	100.0%
合計		度数	149	28	177
		%	84.2%	15.8%	100.0%

p<.491

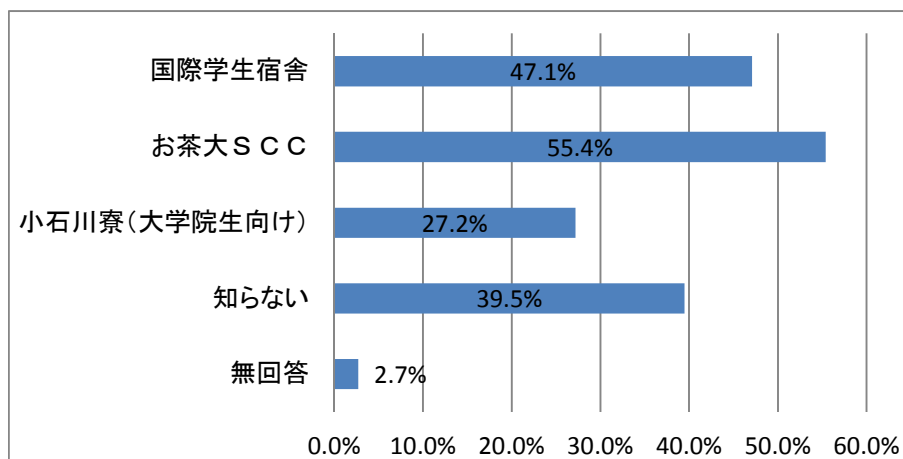


## ②保護者の結果

### <学生寮の認知と利用希望>

図表 4-1 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

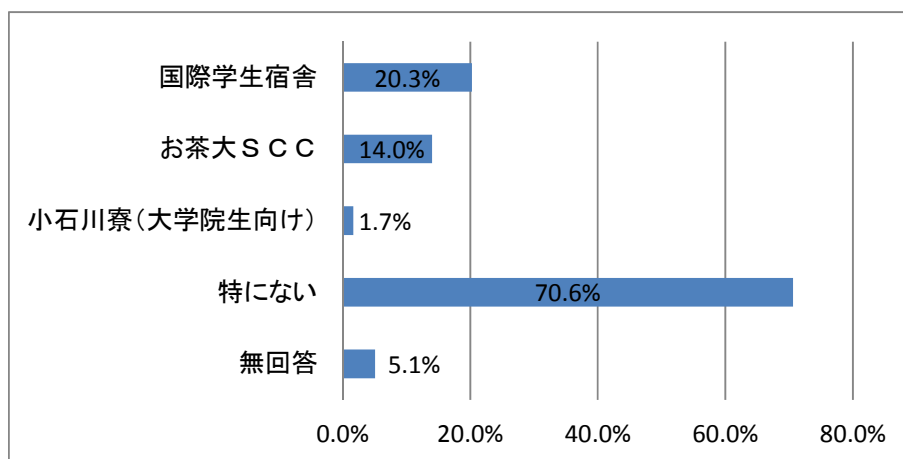
お茶大 SCC が 55.4%、国際学生宿舎がそれに続いて 47.1%の認知率である。全体の傾向として平成 28 年度の新入生の保護者と同じ傾向であった。



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

「国際学生宿舎」への入寮希望が 20.3%であり、これは平成 28 年度新入生の保護者の 20.1%とほぼ同様の結果となった。次いで「お茶大 SCC」が 14.0%で、これは昨年度調査の 16.9%と比較して 2.9 ポイント低い割合を示している。また、「特にない」が 70.6%であり、これは平成 28 年度新入生の保護者の 65.6%と比べて 5 ポイント高い結果となった。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

### <学生寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮を希望しているか明らかにするために「学生寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「学生寮希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合には学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度同様の結果であった。

図表4-3 家計支持者 と 学生寮希望 のクロス表

		学生寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	79	269	348
		%	22.7%	77.3%	100.0%
	母	度数	18	16	34
		%	52.9%	47.1%	100.0%
	本人	度数	3	4	7
		%	42.9%	57.1%	100.0%
合計		度数	100	289	389
		%	25.7%	74.3%	100.0%

p<.001

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「学生寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」、「自営」の場合には学生寮を希望する割合が低く、「無職」あるいは父親が「いない」場合には学生寮を希望する割合が高いことが示された。昨年度は「父親の就労形態」と「学生寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-4 父親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

		学生寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	80	257	337
		%	23.7%	76.3%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	0	2	2
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	自営	度数	4	20	24
		%	16.7%	83.3%	100.0%
	無職	度数	2	2	4
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	いない	度数	14	7	21
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	100	288	388
		%	25.8%	74.2%	100.0%

p<.001

図表 4-5 では「母親の就労形態」と「学生寮希望」のクロス表である。母親が「フルタイム勤務」もしくは「いない」場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし「母親の就労形態」と「学生寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-5 母親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	36	68	104
		%	34.6%	65.4%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	30	118	148
		%	20.3%	79.7%	100.0%
	自営	度数	2	8	10
		%	20.0%	80.0%	100.0%
	無職	度数	27	87	114
		%	23.7%	76.3%	100.0%
	いない	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	96	283	379
		%	25.3%	74.7%	100.0%

p<.128

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「学生寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。

図表4-6 入学後の暮らし向き と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の 暮らし向き	ゆとりがない	度数	85	142	227
		%	37.4%	62.6%	100.0%
	ゆとりがある	度数	15	141	156
		%	9.6%	90.4%	100.0%
合計		度数	100	283	383
		%	26.1%	73.9%	100.0%

p<.001

図表 4-7 では「世帯年収」と「学生寮希望」のクロス表である。世帯年収について「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。世帯年収が低いほど、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-7 世帯年収 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	15	15	30	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	14	20	34	
		%	41.2%	58.8%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	21	37	58	
		%	36.2%	63.8%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	27	64	91	
		%	29.7%	70.3%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	11	61	72	
		%	15.3%	84.7%	100.0%	
	1200万円以上	度数	12	86	98	
		%	12.2%	87.8%	100.0%	
	合計		度数	100	283	383
			%	26.1%	73.9%	100.0%

p<.001

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「学生寮希望」のクロス表である。家計支持者の年収が低いほど、学生寮を希望する割合が高いことが明らかとなった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-8 家計支持者年収 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	20	22	42	
		%	47.6%	52.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	17	26	43	
		%	39.5%	60.5%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	24	52	76	
		%	31.6%	68.4%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	25	66	91	
		%	27.5%	72.5%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	8	65	73	
		%	11.0%	89.0%	100.0%	
	1200万円以上	度数	5	53	58	
		%	8.6%	91.4%	100.0%	
	合計		度数	99	284	383
			%	25.8%	74.2%	100.0%

p<.001

図表4-9は「奨学金受給経験」と「学生寮希望」のクロス表である。過去に奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高いことが示された。昨年度は「奨学金受給経験」と「学生寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-9 奨学金受給経験 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金 受給経験	経験なし	度数	80	261	341
		%	23.5%	76.5%	100.0%
	経験あり	度数	20	28	48
		%	41.7%	58.3%	100.0%
合計		度数	100	289	389
		%	25.7%	74.3%	100.0%

p<.007

図表 4-10 が「学生寮認知」と「学生寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高いことが示された。

図表4-10 学生寮認知 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮 認知	知っている	度数	96	130	226
		%	42.5%	57.5%	100.0%
	知らない	度数	3	158	161
		%	1.9%	98.1%	100.0%
合計		度数	99	288	387
		%	25.6%	74.4%	100.0%

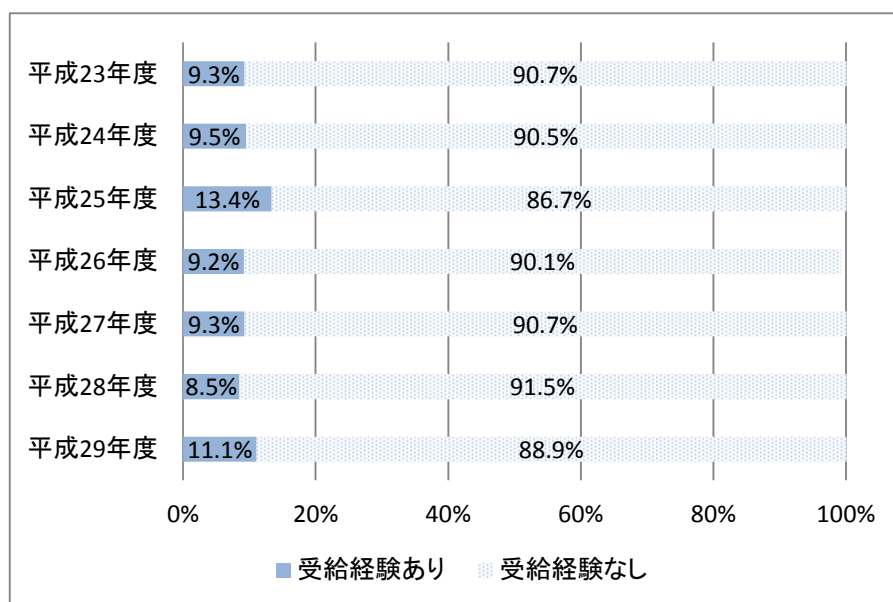
p<.001

#### (4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

##### ①新入生

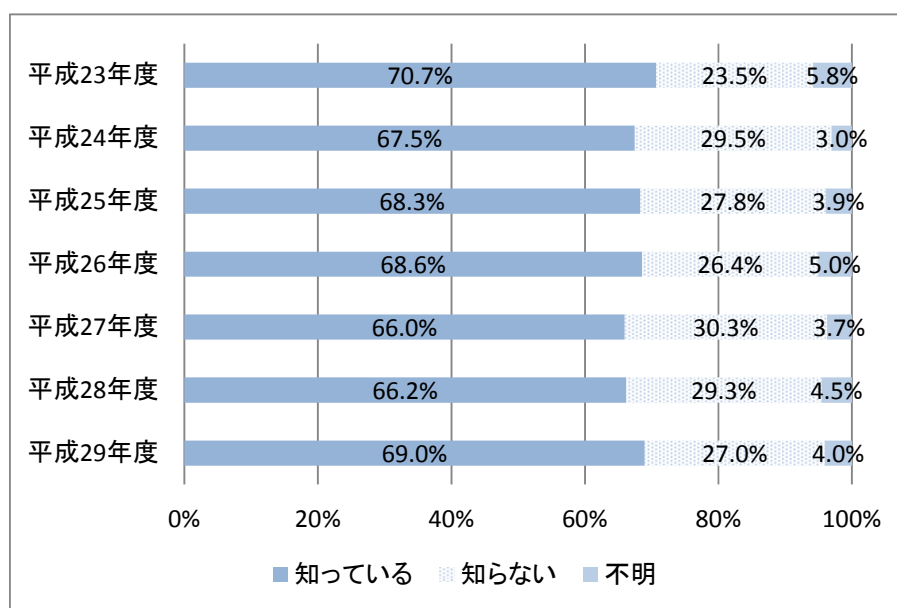
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去6年間の結果と比較したものを図表5-1～5-3に示す。

図表5-1は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去6年間の結果と比較したものである。奨学金受給経験については「経験あり」が11.1%と昨年度より2.6ポイント増加しており、平成25年度調査以来4年ぶりに10%以上の割合を示している。



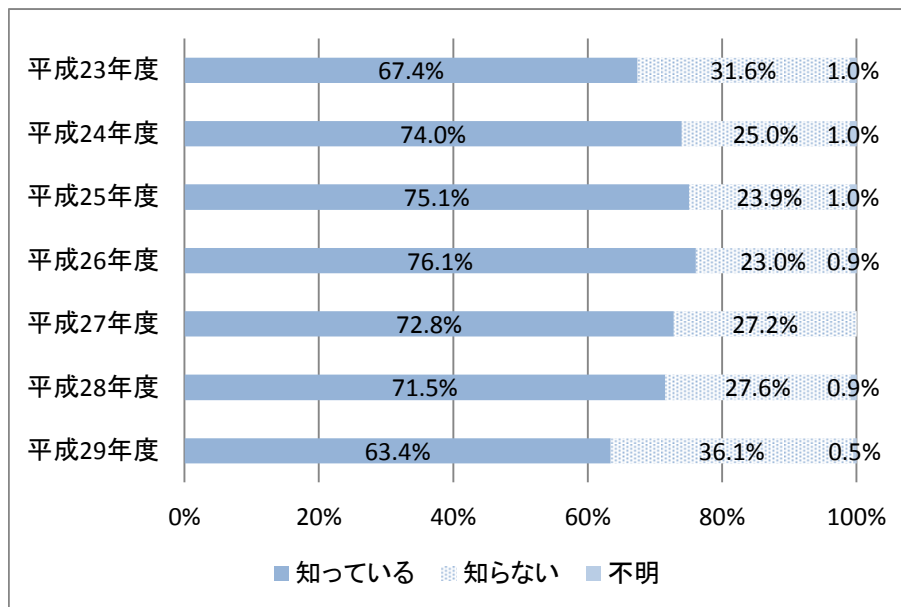
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表5-2は新入生の奨学金等制度の認知について過去6年間の結果と比較したものである。奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が69.0%、「知らない」が27.0%であった。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮認知についての過去 6 年間の結果と比較したものである。「知っている」が 63.4%であり、昨年度と比べて 8.1 ポイント減少している。学生寮認知については、平成 26 年度以降認知率が低下しているが、今年度調査では過去の調査の中で最も低い認知率を示している。

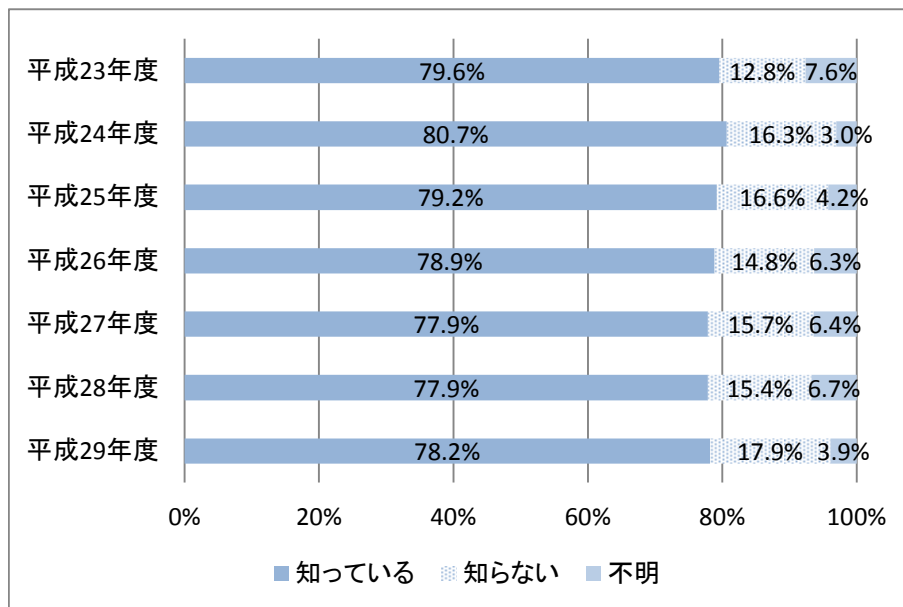


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

## ②保護者

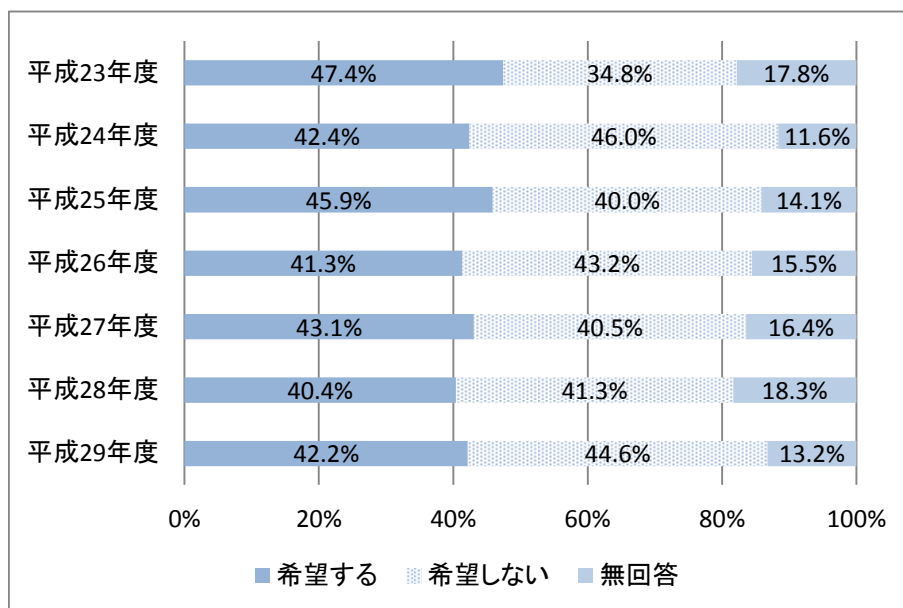
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去6年間の結果と比較したものを図表6-1～6-4に示す

図表6-1は保護者の奨学金等制度の認知について過去6年間の結果と比較したものである。「知っている」が78.2%、「知らない」が17.9%であった。「知らない」と回答した割合は過去の調査の中で最も多い割合であった。



図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

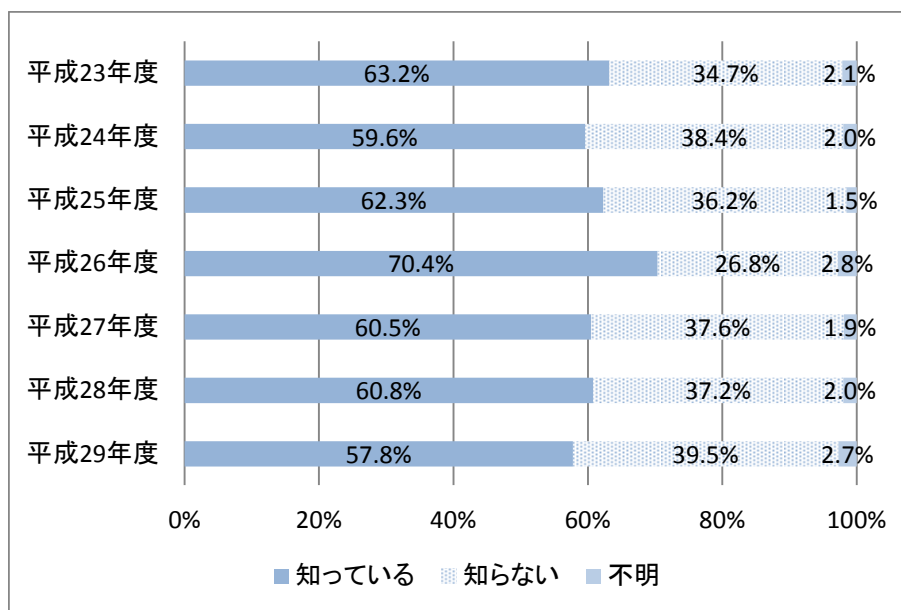
図表6-2は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去5年間の結果と比較したものである。「希望する」が42.2%であり、昨年度の40.4%と比較して2.2ポイント増加している。



図表 6-2 保護者の奨学金等制度の利用希望 過年度比較

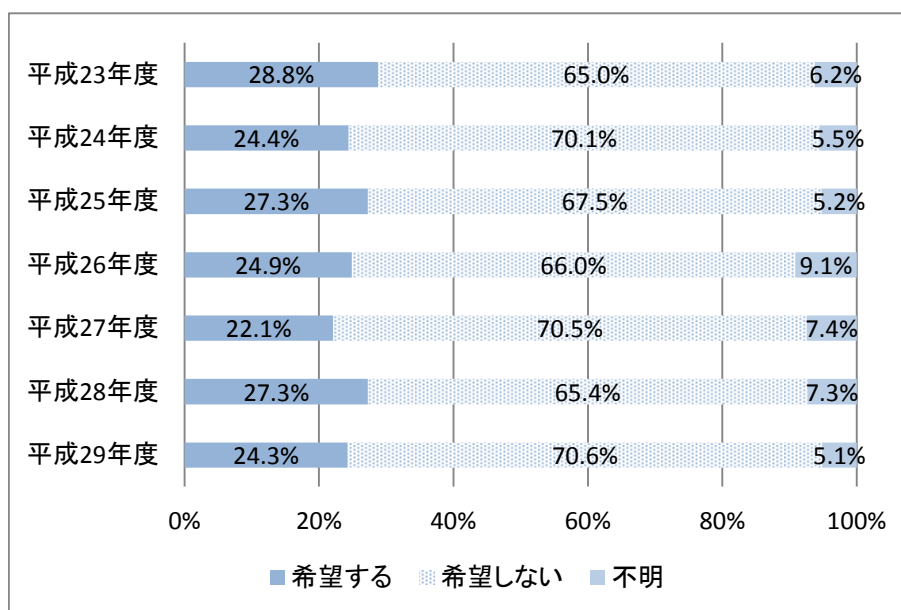


図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 6 年間の結果と比較したものである。「知っている」が 57.8%、「知らない」が 39.5%であり、これは過去の調査の中で最も低い認知率を示している。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮利用希望について過去 6 年間の結果と比較したものである。「希望する」が 24.3%であり、昨年度と比較して 3 ポイント減少している。また「希望しない」と回答した割合は過去の調査の中で最も高く 70.6%であった。



図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較